

茅ヶ崎里山公園 整備・管理計画

2023（令和5）年5月
神奈川県藤沢土木事務所

構 成

はじめに	1
第 1 章 茅ヶ崎里山公園の概要と特性	2
1－1 茅ヶ崎里山公園の概要	
1－2 公園の特性	
1－3 重点的な課題	
第 2 章 公園のめざす姿と主な目標	11
2－1 公園のめざす姿	
2－2 今後 10 年間を見据えた重点的な目標	
第 3 章 取組方針	14
3－1 管理運営方針	
3－2 安全・安心な公園への方針	
3－3 ゾーン別の方針	
3－4 整備の方針	

はじめに

「神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、今後 10 年間に重点的に茅ヶ崎里山公園において取り組む整備と管理の目標と取組方針などを定めたものが、「茅ヶ崎里山公園 整備・管理計画」です。この計画では、茅ヶ崎里山公園の特性を整理するとともに、公園の特性や社会状況を踏まえて今後 10 年間で特に配慮すべき課題を整理した上で、公園の目指す姿とその実現に向けた重点的な目標と、整備・管理・運営方針などを定めています。

県立都市公園では、公園管理者、指定管理者、関係団体、公園利用者など、多様な主体により整備や管理、運営が行われていますが、この計画により、それぞれの主体が効果的・効率的な取組の展開につなげていけるよう、公園に関わる様々な人たちが、公園の特性や目指す姿、取組方針などを共有するために活用していきます。

また、計画に掲げられた目標の達成状況や各取組の進捗状況や社会状況を踏まえ、おおむね 5 年を目安に、必要に応じて見直しを行っていきます。

【参考】神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針

整備と管理の方向性について、5つの視点から 10 の施策の方向性と 24 の施策の展開による体系を示しています。

視点	施策の方向性	施策展開の具体例
Ⅰ 自然環境の保全と活用	(1)生態系や生物多様性の保全	①自然環境情報の共有と整備・管理方法への反映
		②外来生物対策や自然植生復元などの動植物の生息環境づくり
	(2)地球環境問題等への地域からの対応	③環境学習フィールドとしての機能向上
		④環境負荷軽減の推進と都市間環境問題へのアプローチ
Ⅱ 災害対応の推進	(3)緊迫する自然災害への対応	⑤より具体の発災時想定に基づく連携対応強化による防災力の向上
		⑥様々な災害に対応する防災施設の整備
Ⅲ ユニバーサルデザインの推進	(4)誰もが安全・安心にすごせる公園づくり	⑦安全で安心な公園のための施設の整備と管理
		⑧ユニバーサルデザインの推進
		⑨誰もが楽しめる利用・健康増進プログラムや憩いの空間の提供
Ⅳ 地域活性化への貢献	(5)歴史や文化の継承と創造	⑩歴史資源や伝統行事の継承
		⑪地域文化を育む舞台となる公園づくり
	(6)地域と一体となった魅力の向上	⑫周辺施設や観光資源とのネットワーク
		⑬地域活性化の推進
Ⅴ 効率的で効果的な公園整備とサービス	(7)質の高いサービスの提供	⑭風景美術館を目指した景観づくり
		⑮指定管理者制度の効果的運用
		⑯ニーズ把握を踏まえた施設・サービスの充実
	(8)多様な主体との連携	⑰広報、情報発信等の工夫
		⑱連携の多様化
		⑲民間活力の利用（Park-PFI等の活用）
	(9)既存公園の再生	⑳連携のための仕組みの推進
		㉑公園施設長寿命化計画の策定と更新
	(10)都市の魅力高める都市公園整備の着実な推進	㉒公園再生の着実な推進
		㉓都市公園の着実な整備の推進
		㉔国と連携した緑の拠点整備

第 1 章 茅ヶ崎里山公園の概要と特性

1－1 茅ヶ崎里山公園の概要

(1) 所在地：茅ヶ崎市芹沢

(2) 都市計画の概要

ア 都市計画決定

	日付	番号	面積
当初	1993(平成5)年1月26日	神奈川県告示 第49号	36.8ha

イ 公園種別 広域公園

(3) 都市公園の開設の概要

	日付	面積
当初	2001(平成13)年10月28日	12.4ha
最終	2014(平成26)年4月1日	35.2ha

(4) 位置図



(5) 航空写真



※赤線内が簡略化
した公園区域です

(6) 公園の主な施設

湘南の丘、風の谷、風の広場、多目的広場、栗の木広場、里の丘、芹沢の池、柳谷池、中ノ谷池、休憩所、風のテラス、複合遊具、駐車場、パークセンター（管理事務所）、谷の家、里の家等

(7) 利用状況

直近3年間の年間利用者数は約31万人でしたが、新型コロナウイルス感染症流行前は40万人を超えていました。

2020～2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
合計（人） 307,704	28,822	24,458	21,861	16,187	18,388	25,659
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	29,745	31,921	23,867	26,415	30,148	30,233

（参考）

2017～2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
合計（人） 416,662	47,076	61,602	25,895	22,273	23,009	29,721
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	37,075	76,350	21,756	22,258	19,828	29,819

(8) 主なイベント開催状況

イベント名	主催者	時期	参加人数
春の里山公園まつり	実行委員会	5月	約20,000人
秋の里山公園まつり	実行委員会	10月	約14,000人
茅ヶ崎ジャンボリー	市観光協会	10月	約14,000人
畜産まつり	市	10月	約14,000人
レインボーフェスティバル	市	11月	約45,000人

※その他、公園の環境を活かした農作業などの体験型イベントや自然観察会、地域活性化や地元の歴史に触れるイベント等を数多く開催。

(9) ゾーンの設定

公園内を利用を促進する区域と里山を保全する区域に区分し、更に機能・目的・自然環境等により、下記のようにゾーンに区分しています。

ア. 利用促進区域

都市公園のレクリエーション機能を発揮し、利用者サービスに重点を置いた取組を行う区域です。

①森の村ゾーン

山桜の路や梅園など、花見や植物観賞、散策、休憩など静的利用を行うゾーンです。

②子供の村ゾーン

大型遊具や広場など、広々とした空間の中で子供たちが様々な遊びができるとともに、大規模なイベント開催などが可能となるゾーンです。

③山頂の村ゾーン

公園の玄関口として人が集まり、誰もが利用しやすく、また、富士山の眺望などを楽しみ、公園の情報を得ることができるゾーンです。

イ. 伝統的里山区域

地域の里山文化を継承・体験できる取組を行う区域です。

④谷の村ゾーン

里山とふれあい、楽しみ、里山への理解促進、里山保全を目的とした活動など、一定のルールのもとで、利用を図るゾーンです。

ウ. 近代的里山区域

周辺地域で展開される都市近郊型農業との連携を図り、地域の情報発信拠点として、周辺と連携した取組を行う区域です。

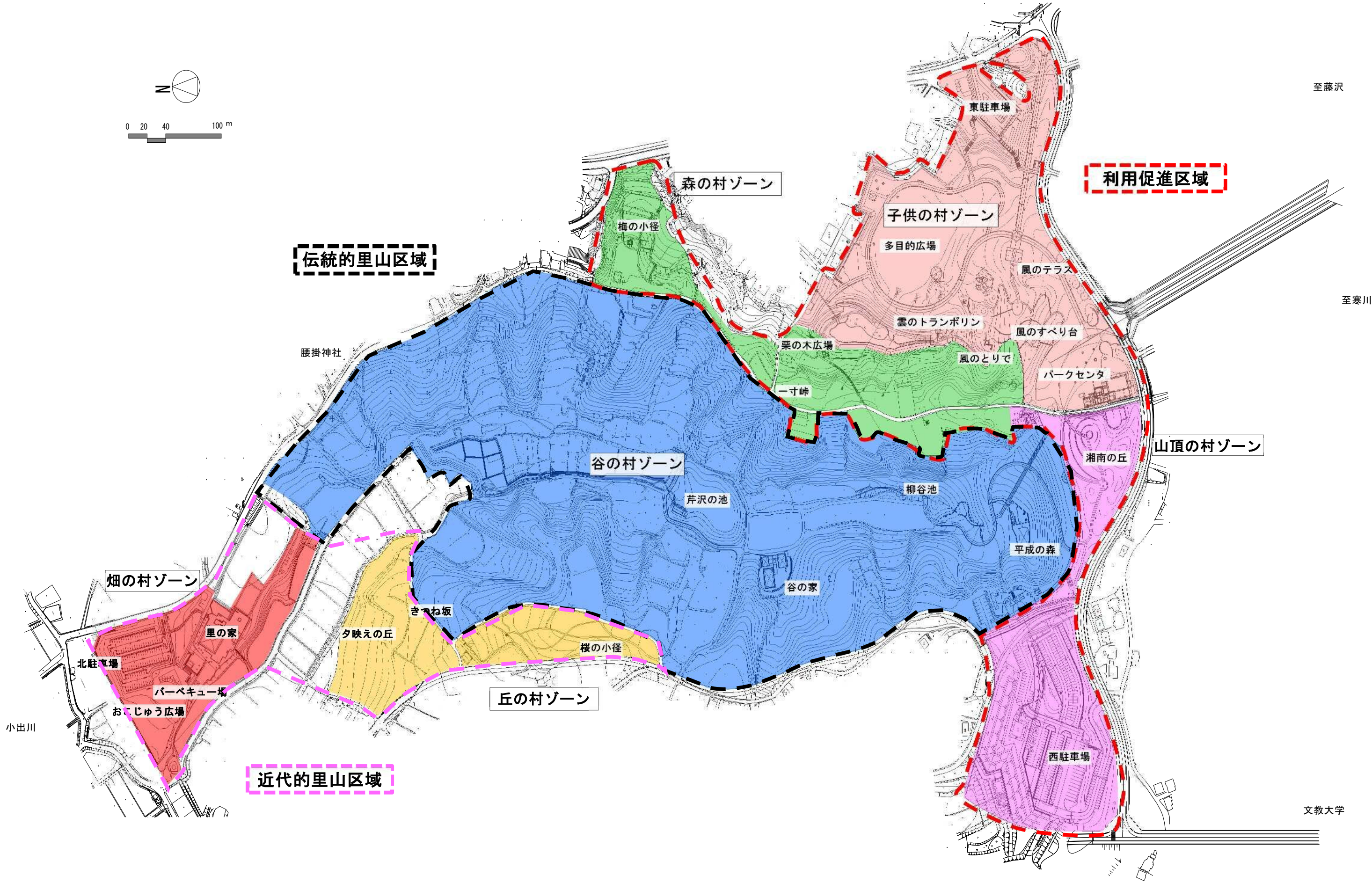
⑤畑の村ゾーン

地域の情報発信や公園利用者と地域との交流により、地域活性化を促進したり。地域景観を楽しんだり、野外活動を行うことができるゾーンです。

⑥丘の村ゾーン

花見や桜の見本園となったり、象的な景観を楽しむことができるゾーンです。

【茅ヶ崎里山概要図】



1-2 公園の特性

(1) 公園の成り立ち

「神奈川県緑のマスタープラン(1992)」における、県内への都市公園の適正な地域バランスを考慮する配置論から湘南地域に計画されました。里山の自然景観を守りながら健康やレクリエーション活動を行う公園として整備を行う予定でしたが、県民等からの強い要望を受け、里山を保全しその文化を体験できる公園にするように整備を進め、公募により名称を決定し、2001（平成13）年に開園しました。

以降、公園区域内で活動する団体との意見交換を行い場である「茅ヶ崎里山公園協議会」（のちに茅ヶ崎里山公園運営会議に改組）や里山の多様な生態系の保全啓発事業を協働で行う「茅ヶ崎里山公園倶楽部」等県民の意見を伺いながら、県民と協働で公園の整備や管理運営を行っています。公園の中央部の谷戸を「里山保全エリア」として里山を保全・修復を行うとともに、その他を里山を利用するエリアとして整備を進めました。2014（平成26）年にバーベキュー場を備え地域交流と野外活動を行うことを目的とした「畑の村」エリアの整備が完成し、ほぼ現在の公園の形になりました。

(2) 公園の特性

本公園は、多くの谷戸が点在する「九十九谷戸」と呼ばれていた茅ヶ崎市北部（藤沢市西北部にかけて）に位置しています。

公園内にある「柳谷（やなぎやと）」は、人との関わりで維持されてきた里山景観が残され、多様な動植物が生息していましたが、雑木林や農地の荒廃が進み、近年はかつての里山の風景が失われつつある状況にありました。そこで、茅ヶ崎里山公園は、谷戸田と周囲の樹林地が一体となった里山の風景を残しながら、県民の憩いの場となるとしてつくられた公園です。子供の遊び場や水田、畑での農作業体験をすることができます。



(3) 公園特性の全体把握表

「神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針」に示す特性項目により、茅ヶ崎里山公園の特性を整理します。

特性	特性項目	公園の状況
自然	①緑地	茅ヶ崎市北部のまとまりのある樹林地と水田、畑で構成され、樹林地はクヌギ・コナラ林等の雑木林や竹林、スギ・ヒノキ林が中心。
	②生態系	樹林地、水田、畑など多様な環境を有することから、生物多様性に富んだ地域。
	③地形状況	中央部を南北に長い谷筋が位置し、この谷と取り巻く山地が特徴的な谷戸地形の里山地域。
防災	④防災	広域避難場所やヘリコプター臨時離発着所だけでなく、災害対策基本法に基づく指定緊急避難場所にも指定。茅ヶ崎市とは避難者受け入れについての協定を締結。
歴史文化 保有状況	⑤歴史	北側の小出川流域では縄文・弥生時代の遺跡が発見されているほか、日本武尊に縁があるとされる腰掛神社がある。江戸時代は直轄領と旗本領。
	⑥文化	里山文化を伝える有形・無形の文化財が多く存在。
交通状況	⑦交通 アクセス	最寄り駅：「茅ヶ崎駅」「湘南台駅」から約7km。各駅からバスあり。 最寄りIC：「寒川北IC」から約6km。
	⑧駐車場容量	3カ所 大型10台、普通車405台
周辺状況	⑨2km 圏内 (徒歩)	公園から南側は台地で住宅地がひろがり、北側は河川沿いの低地で農地となっている。圏域人口は約3万人。
	⑩10km 圏内 (乗り物)	海岸部は藤沢市から平塚市にかけて連坦した市街地で、北側は農地と市街地の混在となっている。圏域人口約150万人。
レクリエーション 施設	⑪レクリエーション	遊具広場やバーベキュー場のほか、伝統的な里山の営みを体験できる場も有り。
利用者	⑫利用者数	年間約40万人
	⑬利用者ニーズ	「散策・散歩」や「ピクニック」「イベント」への利用が多数。
	⑭イベント	公園の環境を踏まえ、農業体験や自然観察のイベントが多く開催。
開園時期	⑮開園時期	パークセンター付近の南側約12ヘクタールを2001(平成13)年開園。
住民参加	⑯住民参加	里山の文化の継承や環境の保全、自然観察などで多くのボランティアが活動。

(4) 公園の魅力

公園の概要と特性を踏まえ、本公園特有の魅力を抽出すると、以下のとおりです。

① 茅ヶ崎市北部に残された貴重な里山環境のある公園

茅ヶ崎市北部から藤沢市北西部にかけての一带には、かつてはたくさんの谷戸が存在し、「九十九谷」と呼ばれていました。

公園内にある「柳谷」もその一つであり、雑木林を中心とする斜面林と、芹沢の池や湿地のある谷戸地で構成され、多様な動植物が生息・生育しており、定期的に自然観察会も開催されています。

また、「茅ヶ崎里山公園倶楽部」という里山の多様な生態系の保全・啓発事業並びに県民に親しまれる茅ヶ崎里山公園であり続けるための事業を協働で取り組むことを目的とした、だれでも参加できる組織があり、人と生き物が共生してきた里山の仕組みを田植え、畑づくり、雑木林・竹林管理等を通して楽しく体験しながら学んでいくことができます。

② 多様なレクリエーション資源のある公園

本公園は、里山環境の保全を主とした公園ですが、遊ぶことのできる流れや中谷ノ池、ボール遊びなどができる多目的広場(芝生広場)、ふわふわドームや大型滑り台などの遊具など子どもが楽しめる施設が充実しているほか、手ぶらでバーベキューができるなど、多様なレクリエーション需要に対応した公園となっています。

③ 地域住民のみならず湘南海岸沿岸住民にとっての防災拠点

本公園は標高約 50m の高台にあることから、東日本大震災で津波警報（大津波）（当時の区分）が発生した際には、湘南海岸沿岸にお住まいの方が多数避難されてきました。その結果を受け、2013（平成 25）年に広域避難場所に指定されました。

このように地域の方のみならず、湘南海岸沿岸にお住まいの方の避難場所としても機能しています。

1-3 重点的な課題

基本方針に示した、県立都市公園が抱える 8 つの課題の中で、茅ヶ崎里山公園において、今後 10 年間で特に配慮が必要な課題は、本公園が現在抱えている問題点を踏まえ、次のとおり設定します。

(1) 問題点

- 最初の開園から 20 年以上経過し、園路舗装など施設の老朽化が進んでいます。
- ナラ枯れが発生し、自然環境保全や利用者の安全対策上、支障となっているだけでなく、里山環境の特徴である雑木林が荒廃し竹類が繁茂するなど、林床植生の脆弱化が進んでいます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、バーベキュー場の利用が減り、公園全体の利用者も伸び悩み、地域の活性化に寄与できなくなっています。
- 高齢化によるボランティア参加者の減少により、県民協働の取組みが減っています。

(2) 課題

課題1 効率的で効果的な公園整備と維持管理

最初の開園から20年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいることから、公園施設長寿命化計画に基づき、施設を適切に維持することが必要です。

課題4 持続可能な社会の実現への更なる取組み

公園の中央部に位置する樹林地は、かつて里山としての管理がなされていましたが、その後手入れがなされなくなっていました。公園となったことで、樹林地の管理をボランティアの皆さんと行うようになりましたが、里山文化の継承や生物多様性の観点からも、更なる樹林地の適切な保全が必要となっています。

また、持続可能な社会の実現に向け、これまで行ってきた園内間伐材を用いたバマスボイラーや太陽光発電など再生可能エネルギーの活用を更に取り組んでいく必要があります。

課題6 高齢者、障がい者など誰もが楽しめる公園づくり

本公園は高低差はありますが、なだらかな園路が多く、東西南北に駐車場があることから、誰もがアクセスしやすく、里山環境にふれあうことができたり、より容易に安心して利用できる施設と体験メニューをさらに充実していく必要があります。

課題7 周辺資源との機能連携や情報発信の工夫を通じての地域活性化への貢献

公園内での地域のイベントの実施や、パークセンター・谷の家・里の家といった園内の拠点施設等の活用、地域の文化行事の共催、公園内外と一体となった里山景観の活用など、地域との連携を一層推進し、茅ヶ崎市北部地域の活性化の拠点の一つになることが望まれています。

課題8 県民、NPO、民間事業者など多様な主体との協働・連携の推進

樹林地の管理や農体験などに、多くの地元の皆さんやボランティア団体の方々が関わっている公園で、そのような自然や農業の体験を楽しみに来園する公園利用者もたくさんいます。しかし、広大な公園を良好な状態に保つためには、さらに多くの方々との協働が必要となっています。

【参考】今後の県立都市公園の整備・管理に係る課題（「基本方針」より）

課題1	効率的で効果的な公園整備と維持管理
課題2	県立都市公園の整備・管理の新たな指標の確立
課題3	サービス水準の確保と更なる向上
課題4	持続可能な社会の実現への更なる取組み
課題5	大規模な自然災害への具体的で実効性のある対応
課題6	高齢者、障がい者など誰もが楽しめる公園づくり
課題7	周辺資源との機能連携や情報発信の工夫を通じての地域活性化への貢献
課題8	県民、NPO、民間事業者など多様な主体との協働・連携の推進

第2章 公園のめざす姿と重点的な目標

2-1 公園のめざす姿

市街地化が徐々に進んでいる中、周辺の農地と一体となった里山林がまとまって残っている場所で、自然環境や生物の生息環境保全に重要な役割を持っています。里山林を保全することで、地域に伝わる里山文化の継承につながり、公園を舞台にして、自然体験や農体験に触れることができ、また、体験するだけでなく、提供する側のボランティアなど参加活動へのきっかけにもなります。

多目的広場や遊具広場もあり、里山体験も可能な独特な広域レクリエーションの場となっています。

一方、里山の自然と文化の維持や施設の適切な維持管理に課題が生じています。このような課題に対応し、誰もが安全、安心して利用できる公園管理に取り組むとともに、地域の貴重なオープンスペースとして、防災面での役割も果たして行きます。

そして、本公園は、地域の人材と協働しながら、「里山・谷戸」の景観や、自然と文化を適切に保全し、それらを活用した様々な体験を提供する場となることをめざします。

なお、公園のめざす姿の実現にあたっては、県民等と協議して策定した、「茅ヶ崎里山公園保全管理計画（2009（平成21）年）」と「茅ヶ崎里山公園の利用・整備・管理の方針（2011（平成23）年）」（以下、「利用・整備・管理の方針」という。）に則って取り組むこととします。

また、本公園は景観法に基づく茅ヶ崎市景観計画における景観重要公共施設に位置付けられていることから、同計画にも則って取り組むこととします。

【茅ヶ崎里山公園のめざす姿】

- 湘南地域に残る「里山・谷戸」の景観や、動植物の生息・生育環境の保全を図る
- 地域の人材と協働しながら、多様な体験プログラムによる里山文化を継承する場を提供する
- 地域の避難利用の場として、災害時における防災機能を確保する

2-2 今後10年間を見据えた重点的な目標

本公園のめざす姿を実現するため、基本方針の施策体系（視点、施策の方向性、施策展開の具体例）から、次のとおり今後10年間を見据えた重点的な目標を設定します。

目標の達成にあたっては、公園の管理者である県、指定管理者だけでなく、地元市や県民の方々、民間企業など、多様な主体との協働により進めることとします。

【目 標】 老朽化した施設の計画的な更新

事後的な修繕補修から予防保全的な維持管理への転換を推進し、施設の維持管理に要する負担を平準化するとともに、ライフサイクルコストの低減を図るため、「公園施設長寿命化計画」に基づき、老朽化した施設の計画的な更新を行います。

なお、長寿命化計画は必要に応じて適宜見直し、予防保全的な補修だけでなく、機能向上や維持管理経費の削減に着目した施設の再生や、法令・規則等の改正に対応した施設改修や、機器類の機能向上や増加に伴う電気設備等インフラ施設の改修にも取り組みます。

- 【施策体系】・視点 V 効率的で効果的な公園整備とサービス
- ・施策の方向性 (9) 既存公園の再生
- ・施策展開の具体例 ②公園長寿命化計画の策定と更新

【目 標】 茅ヶ崎里山公園里山保全管理計画による適切な管理

県協働による「茅ヶ崎里山公園里山保全管理計画」を適切に運用し、また、公園づくりと連動した自然環境モニタリングを行います。各ゾーンの方針に応じた、樹林地や竹林整備などの植物管理を行い、また、「伝統的里山保全エリア」は保全管理計画に基づいて順応的管理を行います。

- 【施策体系】・視点 I 自然環境の保全と活用
- ・施策の方向性 (1) 生態系や生物多様性への配慮
- ・施策展開の具体例 ①自然環境情報の共有と整備・管理方法への反映

【目 標】 ユニバーサルデザインの推進と利用プログラムの充実

里山環境にふれあえるための施設のユニバーサルデザイン化等を一層推進し、あらゆる方に余暇活動等の場の提供や様々な里山体験プログラム提供など、誰もが楽しめる公園として、ハード・ソフト両面での充実に取り組みます。

- 【施策体系】・視点 III ユニバーサルデザインの推進
- ・施策の方向性 (4) 誰もが安全・安心にすごせる公園づくり
- ・施策展開の具体例 ⑨誰もが楽しめる利用・健康増進プログラムや憩いの空間の提供

【目 標】 里山のくらしや文化、環境の継承

里山の継承に重点をおいた運営や協働を充実していきます。里山のくらしや文化、環境を継承するイベントを地域住民も参加して行い、また、伝統的な農業手法や伝統文化を学びながら、現代に即した資源循環を行う仕組みの継承に努めます。

【施策体系】・視点 IV地域活性化への貢献

- ・施策の方向性 (5) 歴史や文化の継承と創造
- ・施策展開の具体例 ⑪地域文化を育む舞台となる公園づくり

【目 標】 里山らしさによる地域活性化

里山らしさの維持・向上を通じて、交流拠点としての地域活性化に寄与します。里山らしい景観や雰囲気形成され、地域と連携した様々な活動の拠点として、地域の魅力向上や地域活性化に貢献していきます。

【施策体系】・視点 IV地域活性化への貢献

- ・施策の方向性 (6) 地域と一体となった魅力の向上
- ・施策展開の具体例 ⑬地域活性化への推進

【目 標】 多様な人材との連携した管理運営

連携の多様化や連携のための仕組みを強化します。ボランティア団体や地域住民、学校等の施設との協働を通じて、多様な人材との連携を引き続き行います。

【施策体系】・視点 V効率的で効果的な公園整備とサービス

- ・施策の方向性 (8) 多様な主体との連携
- ・施策展開の具体例 ⑳ 連携の多様化、連携のための仕組みの推進

第3章 取組方針

今後10年間を見据えた目標を実現するため、利用者へのサービスの向上を念頭に、管理や整備に関わる取組方針について、安全・安心への取組にも考慮し、次のとおり定めます。

3—1 管理運営方針

(ア) 基本方針

多様で貴重な動植物を育む豊かな里山環境を保全するとともに、里山文化を体験する場、里山の自然と親しむ場、自然とのふれあい活動に参加する場を提供する公園として管理運営するとともに、里山の暮らしを後世に伝えます。また、散策休養の場、レクリエーションを楽しむ場、ジョギングなどの健康増進の場、ボランティアがやりがいを持って公園に関われる場など多様なニーズに対応した公園として、各施設が安全で快適に利用できるよう管理運営します。

(イ) 自然環境保全方針

サシバやアカガエルなどを指標種とし、貴重で多様性のある動植物相や豊かな里山環境を保全します。また、将来にわたり様々な動植物を育み、貴重な生息空間となる多様な環境を維持するとともに、人との関わりによって育まれた自然である里山環境を十分理解した上で保全していくこととし、「茅ヶ崎里山公園運営会議」をはじめとする県民団体などの意見を参考にしながら、順応的な維持管理を行います。

また、「利用・整備・管理の方針」に基づき、適切な維持管理、運営を行います。

なお、本公園を“茅ヶ崎市内で特に重要な自然環境を有しており、生態系ネットワークの形成を目指す地区”と位置付けている「茅ヶ崎市みどりの基本計画 生物多様性ちがさき戦略」にも配慮することとします

(ウ) 運営方針

運営において留意すべき事項は次のとおりです。

- 広報や情報発信等の工夫を行い、利用者と双方向のコミュニケーションを図りながら、利用促進に必要な取組を管理運営に反映します。
- 「利用・整備・管理の方針」に基づき、必要に応じて地元の専門家等の助言を得ながら、水田・雑木林の保全などを地域住民やボランティアと連携して積極的に推進し、公園の運営や里山環境の保全に寄与する、コーディネートを行います。
- 水田や畑、雑木林の維持管理及び動植物の保全を図ります。
- 次の点に留意し県民参加行事を行います。
 - 農作物や間伐材など、公園から出た生産物については、適正に管理を行う仕組みを構築し、里山保全や公園の利用促進に使用します。
 - 管理事務所は、管理拠点機能のほかに公園利用や県民の協働拠点、利用者へのサービス拠点、情報の発信拠点として運営します。
 - 谷の家は、かつての農家のたたずまいを感じさせる施設として、公園利用者の休憩及び里山保全や里山文化発信の活動拠点として運営します。

- 里の家は、農を楽しみ、食を楽しみ、地域とのつながりをつくる施設として、公園利用者が地域の農業と交流したりすることで、地域活性につながる場として運営します。
- 多様な公園利用プログラムの提供とマナー向上を図り、障がい者、幼児から高齢者まで誰もが安全、安心して楽しめる管理運営を行います。
- ゴミの持ち帰り・省エネルギー・再生可能エネルギー利用を推進し、循環型社会への普及啓発に努めるとともに、園内の植物管理に伴って発生する木や枝等を園内リサイクルする等のゼロエミッションに努めます。
- 公園周辺施設との連携、地元の人々との連携、情報の連携などを深め、公園周辺地域での世代を超えた交流などコミュニティの活性化と地域全体の魅力向上を目指します。

(エ) 維持管理方針

維持管理において留意する事項は次のとおりです。

- 公園施設や設備については、その機能や特性を十分に理解した上で、清潔かつ正常な状態とし、利用者が安全で快適に利用できるよう適正な維持管理を行います。
- 利用者ニーズや社会情勢の変化を踏まえ、費用対効果を考慮しながら公園再生に取り組む維持管理を行います。
- 植物管理（植込地、芝生、樹木、竹林、草地等管理）について、当初の植栽意図や、「利用・整備・管理の方針」を踏まえ、各植物の特性及び生態系に配慮した上で、適正に持続、育成するよう必要な維持管理を行うこととします。
- 利用者や様々な団体との情報交換を図りながら、維持管理業務を行います。
- ナラ枯れ対応については園路や公園施設沿いの被害木を優先に、樹木の健全度に応じて、伐採等の対応を行い、被害拡散防止や利用者施設の安全確保を図ります。

3-2 安全・安心な公園への方針

地震・台風・大雨などへの対応、公園施設の老朽化に起因する事故の発生に未然防止、そして、近年の社会状況を踏まえ、公園の利用者や周辺住民が安心して公園を利用できるよう、次のとおり対応します。

(1) 地震災害

本公園は、茅ヶ崎市地域防災計画で、広域避難場所、ヘリコプター臨時離発着場に指定されています。これらを踏まえ、大規模地震などの大規模災害発生時等には、県・地元自治体・指定管理者が連携・協力して災害対応に努めます。

(2) 気象災害（台風・大雨等）

台風や豪雨等の自然災害への脅威の高まりなどを踏まえ、巡回点検や応急対策等のマニュアルを作成し実践します。また、県、指定管理者及び防災機関との連絡体制の構築を行い、併せて、被害軽減のための対応を行います。

（３）公園の安全管理

園路や休憩施設、遊具などの公園施設は、専門業者による点検や公園管理者による日常点検やパトロールを定期的に行い、不具合の早期発見、早期対応を行います。また、施設沿いは、除草や剪定をこまめに行い、周囲からの死角を解消し事件・事故の発生を未然に防止します。その他、想定される様々な危機への的確な対応に努めます。

さらに、新型コロナウイルス等の感染症への対応など、想定される様々な危機への的確な対応に努めます。

３－３ ゾーン別の方針

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくため、園内の各ゾーンの現況等も踏まえ機能・目的・自然環境等により類型化し、ゾーンごとの方針を定めます。

（１）利用促進区域

ア 森の村ゾーン

市道の東側斜面は、花の名所として季節感を味わえる植物管理を行います。また、尾根、斜面、谷戸低地からなる立地環境のそれぞれの特性を保全・修復していきます。

イ 子供の村ゾーン

安全、快適、平等な利用に供するための取組を行い、遊具の定期的な安全点検や調整池、樹林の適正管理を行います。また、芝生の保全育成と利用のバランスのとれた管理を行います。

ウ 山頂の村ゾーン

誰もが利用しやすい場所としての取組を行うとともに、公園のメインの情報発信拠点として、パークセンターを運営します。

（２）伝統的里山区域

ア 谷の村ゾーン

地域の伝統的農業手法や伝統文化を学びながら、資源循環のしくみを新しい形で継承できるよう管理運営を行うとともに、「利用・整備・管理の方針」に基づき、里山の多様な空間のつながりを保ち、生きものに配慮しながら順応的管理を行います。茅ヶ崎里山公園倶楽部をはじめ、本公園で活動している県民団体と指定管理者が協働することとします。

（３）近代的里山区域

ア 畑の村ゾーン

昔ながらの小出地域の畑の風景づくりに配慮し、地域の作物や管理手法を取入れます。周辺の農地に配慮した管理を行い、地域の人と協働で、地域の農産物を楽しめ、地域活性化につながる取組を行います。また景観を楽しみながらバーベキューなど野外活動を楽しめる取り組みを充実させるなど、農と食により地域活性化を図ります。

イ 丘の村ゾーン

桜を楽しんだり、大木の活用に取り組むとともに、低茎草地の緩斜面と丘の上の防風林で構成される景観を維持します。また、水田境界付近の鶯の藪エリアでは、ササを整理し、水辺環境の多様化を図る草地を維持します。

3—4 整備の方針

公園の再整備・拡大整備・長寿命化などについては、本公園の性格・役割に照らし、長期的な視点に立つことを基本としますが、本公園のむこう 10 年間を見据えた目標を踏まえ、10 年間の整備方針を設定し、実施するものとします。

整備にあたっては、財政面での制約が厳しくなる中、民間事業者の資金・人的資源・ノウハウといった活力を、県立都市公園の整備に活かす必要があることから、様々な公民連携の活用を検討します。

(1) 整備方針

本公園は、自然とともに生活を営む里山の景観を受け継ぎ、自然と未来の織りなす豊かな未来環境を作ることを目指す「湘南みらいの里」をテーマとして整備を進めています

○長寿命化計画に基づく施設の更新により、公園施設を安全に利用できるよう、計画的に整備します。

○適切な樹林地管理により、安全で良好な自然を維持します。

○ユニバーサルデザインの推進、多言語表示等、誰もが利用しやすい公園とするための改修や整備を計画的に進めます。

(2) おおむね 10 年以内に対応すべき主な事項

次の施設等については、速やかに改修や整備を行うことが望ましいため、公民連携の活用など多様な手法を用いて対応していきます。

名称	所在ゾーン	事業目的
樹林地・竹林 整備	谷の村ゾーン	自然環境の保全・安全対策
風のテラス 改修	子供の村ゾーン	老朽化施設の更新等 地域活性化
園路広場、改修	全 域	老朽化施設の更新等
トイレ補修、改修	全 域	老朽化施設の更新等 ユニバーサルデザインの推進
遊具 改修・更新	子供の村ゾーン他	ユニバーサルデザインの推進
管理カメラ 設置	全 域	安全対策
電気・機械・上下水道設備 改修、更新	全域	老朽化施設の更新等
西駐車場 整備	山頂の村ゾーン	利便性の向上
公園施設の補修・修繕	全域	老朽化施設の更新 ユニバーサルデザインの推進

※ 整備の優先順位は、施設の老朽化の程度、利用者からの要望、利用者への安全確保等の観点から、総合的に判断。